

特集1

第27回Tシャツアート展

1025枚のTシャツ 潮風にひらひら



↑ 審査員・宮西達也さんのお話も開催。

→「高知家のスター探しキャラバン」で出会った入野小4年のスター3人組(左から池田大樹くん、松本志己くん、植野陽太くん)。

←今年のTシャツアート展では、Tシャツやキャンドルで黒潮町合併10周年をお祝い。



ゴールデンウィークの入野の浜。今年、町内262枚のほか、37都道府県、海外31カ国から1025枚の応募がありました。

平成元年に始まった砂浜美術館のTシャツアート展は、全国から募集した作品(絵、写真、書など)をオーガニックコットンTシャツに印刷し、砂浜に杭を立てて展示します。5月2日から7日までの6日間で、昨年を上回る約2万8000人が来場しました。

2日午後には、絵本作家・宮西達也さんが作品を審査。砂浜大賞には、町内小学4年生の作品から、楠目蒼くんの「でかいクジラ」が選ばれました。

5日に行われた「ビーサン飛ばし大会」は、今年で10回目。子ども、大人男性、大人女性の3つの部に、合計約100人が参加しました。ビーサン



協会の公式ルールに従って実施し、1ビーサン25cmで計測しますが、この日は風が強く、参考記録となりました。1人1回しか挑戦できないためみんな真剣。勢い余って後ろに飛んだり、風に流されコースアウトしたり。遠くに飛ぶと歓声が上がりました。

また、同日夜には、キャンドルナイトも開催。大方高校生徒会クリエコのメンバーや、高知大学地域協働学部の学生らが、砂浜にキャンドルを並べて点火しました。日中のワークショップで絵などを描いたTシャツ型の紙もキャンドルカバーとして展示。炎の灯りが夜を幻想的に演出しました。



朝は波の音 Tシャツがりりしく立っているよう

昼は風で揺れて Tシャツが遊んでいるよう

夜は Tシャツが仲良く手をつないでいるよう

(Tボラ・石黒真彩さん)



←ウエディングプランナーりぼん主催の砂浜ウエディング。Tシャツに愛を誓いました。

→会場に突然現れたポスト。ちゃんと郵便局の職員が集めて来てくれました!

↓地元の中高生や、県内外の大学生など、たくさんボランティアスタッフがお手伝い。



【第27回Tシャツアート展 展示作品】 合計1,025枚

●一般応募 502枚

●グループ(団体応募)

- ウエディングプランナーりぼん 10枚
- オズマガジン ていねい SHARE PROJECT 15枚
- NPOもあなキッズ自然楽校 17枚
- 香玄社 21枚
- みんなのコーヒー 24枚
- 造形教室 20枚
- ハートフルひまわり 33枚
- 大方誠心園・生華園 27枚

●ひらひらフレンドシップ ※1

- Tシャツアート展inガーナ!!! 20枚
- お庭でひらひら@豊田市青松こども園 31枚
- ひらひら×アートFestival in 富山 23枚
- のもぎき渚フェスタ砂浜Tシャツアート展 22枚
- 気仙沼Tシャツ海岸in唐桑半島 20枚

●黒潮町小学4年生のみんな 80枚 ※2

●世界とHIRA HIRA JICAみんなの笑顔 美術館 50枚 ※3

●コースにHIRA HIRA はだしマラソンの思い出 美術館 100枚 ※4

●祝10周年黒潮町おめでとう 10枚

※1 ひらひらフレンドシップとは、「砂浜美術館」の考え方を通して、その町のありのままの風景を楽しんでいくネットワーク。

※2 町内8小学校の4年生が毎年作品を応募。例年モンゴルで展示しますが、今年はなんとアフリカのガーナで展示します。

※3 青年海外協力隊50周年を記念したJICAとのコラボ企画。

※4 シーサイドはだしマラソン30回記念企画展(26ページ参照)。

Tシャツアート展ボランティア(Tボラ)の声

●米津^{たかと}天斗^とさん(高校1年・黒潮町) ※写真右から2番目。

地元だからボランティアしたいと思いました。砂像づくりの水運びや、受付など、疲れたけど、他のボランティアとの交流が楽しかったし、Tボラを通して地域に貢献できてよかったです。「やっぱりいいところに住んでいるな」と再確認しました。

●石黒^{まあや}真彩^まさん(大学3年・横浜市) ※写真右端。

去年Tボラをした友人に誘われて参加しました。四国は初めてです。自然と人との関係に興味があり、Tシャツアート展は、自然を舞台に、人が作ったものを展示しているので、時間帯によってTシャツの表情が変わり、調和していて美しいと感じました。